



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：パレスチナ人少年の拉致・殺害事件（2）

7月6日、イスラエル警察とシンベド（国内治安機関）は、2日に東エルサレムでパレスチナ人少年を殺害した容疑者6人を拘束した。拘束された6人についての情報は公表されていない。イスラエル側の報道では、容疑者らは少年で、7月1日にも東エルサレムでパレスチナ人少年（9歳）の拉致未遂事件を起こしている。また7日の報道では、容疑者の内の1人ないし3人が犯行を自供した。

2日に殺害された少年の葬儀は、4日に東エルサレムで行われた。葬列参加者の一部が、警察と衝突し、同衝突は6日まで続いた。4日から5日にかけては、西岸各地で衝突が起きている。イスラエル国内のパレスチナ人（イスラエル・アラブ）の町や南部のベドウィンの町でも、住民と警察が衝突した。パレスチナ側の報道では6つの町で衝突が起きている。衝突が拡大しているが、抗議行動参加者に死者はまだ出ていない。

パレスチナ人少年の殺害については、ペレス大統領、ネタニヤフ首相だけでなくヤアロン国防相、ベネット通商産業相など右派の政治家も非難している。6日、ネタニヤフ首相は、閣議で、被害者がイスラエル人であれパレスチナ人であれ殺人は殺人であるとし、区別せずに対応すると述べている。ネタニヤフ首相は、6日に殺害されたパレスチナ人少年の家族に弔意を表明していたが、7日朝、被害者の少年の父親に電話をして今回のような事件は許さないと考えを伝えた。

#### 評価

東エルサレムのパレスチナ人少年殺害事件に対するイスラエル側の対応は、慎重である。住民と警察の衝突が頻発しているが、死者は出ていない。イスラエル警察が、死者を出さないよう対応している可能性が高い。イスラエルの政治家たちは皆、パレスチナ人少年殺害を非難している。これは極右の政治家であっても、今回の事件を弁護する余地がないことを示している。現在の焦点は、6人の容疑者が犯人と断定されるかどうかである。仮に断定された場合、彼らが誰で、どのような立場の個人・グループかによって、事件の今後の展開とイスラエルの入植者少年3人殺害に対する報復策も変わるだろう。

（中島主席研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799